

# 小茂田青樹展

OMODA SEIJU

日本画が新たな表現を獲得してゆく大正から昭和にかけて最前線で活躍したひとりに、川越が誇る日本画家・小茂田青樹(1891-1933)がいます。このたび、川越市の市制施行100周年と当館の開館20周年を記念し、青樹の画業の軌跡をたどる特別展を開催いたします。

現在「蔵のまち」として親しまれている川越の中心地に生まれた青樹は、17歳になる年に上京し、今村紫紅や速水御舟ら気の合う仲間とこれからの日本画を模索する青春期を送ります。その後、再興日本美術院展への挑戦をとおして画家としての確固たる表現に目覚めてゆきますが、一層の活躍を期待された矢先に体調を崩し、41歳という若さで生涯を終えました。青樹の歩んだ画道は決して平坦ではありませんでしたが、挫折の末にたどり着いた自然観照に基づく写実性と装飾性の融合、濃密な色彩表現は、唯一無二の個性として現在もなお高く評価されています。

本展では、各時代の代表作で画業の展開をたどるほか、主に昭和期における作品制作の実態や川越との関係にも迫ります。当館では開館1周年以来19年ぶりとなる青樹展です。ルーツである川越の地で、静かながら情感溢れるその芸術世界をご堪能ください。

会期中一部展示替えがあります



《漁村早春》1921年(大正10) 愛知県美術館蔵



《牽牛花》1924年(大正13) 川越市立美術館蔵



《虫魚画巻》1931年(昭和6) 東京国立近代美術館蔵



《梅さける村》1914年(大正3) 五島美術館蔵



《麦路》1919年(大正8) 埼玉県立近代美術館蔵



《秋草に少女》1926年(大正15) 株式会社ヤマタネ蔵



《春の夜》1930年(昭和5) 埼玉県立近代美術館蔵

## 【関連事業】

### (1) 講演会 「小茂田青樹の真価 逆境での踏ん張り」(聴講無料)

講師 田野葉月氏(滋賀県立美術館主任学芸員)  
日時 11月19日(土) ①午前11時～午後0時30分  
②午後2時～3時30分

会場 アートホール  
定員 各25人(先着)  
申込 10月22日(土) 午前9時から電話・ファクスで美術館まで

### (2) ワークショップ「青樹作品を間近で見よう」(参加無料)

日時 11月6日(日) 各回30分程度  
①午前11時～:《麗日》1926～28年(大正15～昭和3)頃  
②午後2時～:《粉雪》1930年(昭和5)

会場 会議室  
定員 各回6人(先着)  
申込 10月1日(土) 午前9時から電話・ファクスで美術館まで

### (3) スライドによる作品解説(聴講無料)

日時 ①10月30日(日) 午後2時～ ※手話通訳付き  
②11月27日(日) 午後2時～

会場 アートホール  
定員 各25人(先着) ※申込不要 当日直接会場へ

## 交通案内 《駐車場が狭いため公共交通機関でのご来館にご協力ください》

- 東武東上線・JR埼京線(川越線)「川越駅」から
- 東口7番のりば 東武バス「川越運動公園/埼玉医大/上尾駅西口」ゆき「川越市役所前」下車徒歩5分
- 東口1・2・4・5・6番のりば 東武バス「蔵のまち」経由で「札の辻」下車徒歩8分
- 東口3番のりば「小江戸名所めぐりバス」で「博物館前」下車
- 西口2番のりば「小江戸巡回バス」で「博物館美術館前」下車(土日祝のみ運行)
- 西武新宿線「本川越駅」から
- 5番のりば 東武バス「川越運動公園/埼玉医大/上尾駅西口」ゆき「川越市役所前」下車徒歩5分
- 5番のりば 東武バス「蔵のまち」経由で「札の辻」下車徒歩8分
- 「小江戸巡回バス」で「博物館美術館前」下車(土日祝のみ運行)
- ※「川越市自転車シェアリング」も便利です(ステーション「博物館・美術館」)

## 川越市立美術館

〒350-0053 埼玉県川越市郭町2丁目30-1  
TEL:049-228-8080 FAX:049-228-7870  
https://www.city.kawagoe.saitama.jp/artmuseum/

KAWAGOE CITY ART MUSEUM

★ご来館の際は、最新の開館状況および注意事項を当館ウェブサイトまたはお電話にてご確認ください。

